あいちのたてもの ものづくり編

AITI NO TATEMONO
MONODUKURI HEN

REGISTERED TANGIBLE
CULTURAL PROPERTY

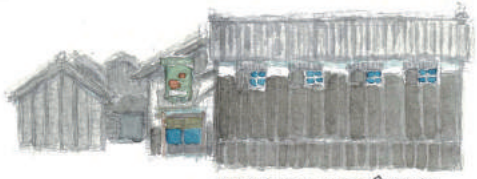
TÔZIKI KAIKAN

TÔZIKISENTÂ

YAMASIGESYÔTEN

KAMANOARUHIROBA

KANKYÔMIRIN


NAKASADASYÔTEN

HATTYÔMISO

KOKONOEMIRIN

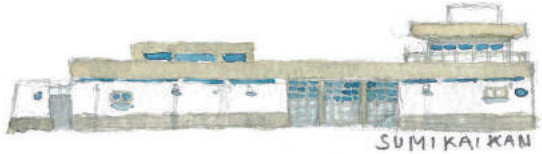
HANDA AKARENGATATEMONO

あいちのたてもの ものづくり編

愛知登文会

MOMENGURA

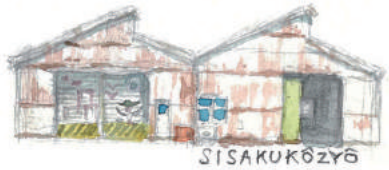
YÛBINKYOKU


SUMIKAIKAN

AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS,
GOVERNMENT OF JAPAN

NAKASITIMOMEN

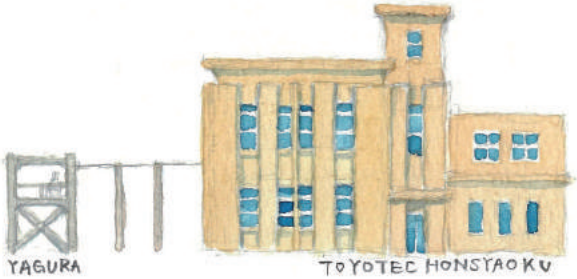
HAKKENKAN

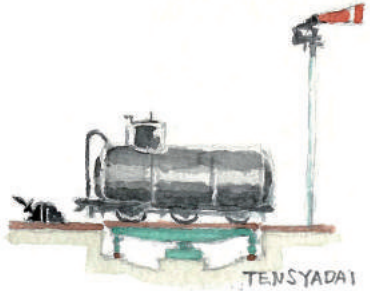

SISAKUKÔZYÔ

愛知県国登録有形文化財
建造物所有者の会

あいちのたてもの ものづくり編

ASAHISUNAC


YAGURA
TOYOTEC HONSYAOKU


TENSYADAI

あいちのたてもの ものづくり編

絵・文 村瀬良太

愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会

あいちのたてもの ＝ものづくり編＝ MAP

1. 名古屋陶磁器会館 »p.10
2. 日本陶磁器センター »p.12
3. 旧山繁商店 »p.14
4. 窯のある広場・資料館 »p.16
5. 八丁味噌本社事務所 »p.20
6. 中定商店味噌蔵 »p.22
7. 九重味淋大蔵 »p.24
8. 甘強味淋本社事務所 »p.26
9. 半田赤レンガ建物（旧カブトビール製造工場）»p.28
10. 木綿蔵ちた（旧竹内虎王商店木綿蔵）»p.32
11. 旧中七木綿本店 »p.34
12. 豊田市近代の産業とくらし発見館 »p.36（旧愛知県蚕業取締所第九支所）
13. 墨会館 »p.38
14. トヨタ創業期試作工場 »p.42
15. 旭サナック本館 »p.44
16. 旧国鉄武豊港駅転車台 »p.48
17. トヨテック本社社屋（旧豊川電話中継所）»p.50

はじめに

私たちのまわりには、
古めかしい洋館や、立派なお屋敷、歴史のある校舎に、荘厳なお寺、
可愛らしい教会堂や、大きなレンガの工場、
そして役割を終えた電波塔など、年月を重ねた建物が、
ごく自然に街にとけ込んでいます。
そういった文化財として貴重な建物を国登録有形文化財といいます。
日本には他にも、重要文化財や国宝などに指定された建物があり、
現在その総数は、1万5000件ちかくに上ります。
市指定・県指定のものを含めると、さらにその数は増えますが、
一方で、フランスの規定する歴史的記念物の4万4000件には遠くおよびません。
日本は文化的には、まだ発展途上なのです。

本書は、愛知県にある国登録有形文化財の魅力を紹介する本です。
愛知県には、さまざまなタイプの建物が残っています。
ですが、それらはすべて、あたりまえに残ってきたわけではありません。
多くの人々の努力で残されてきたものも少なくないのです。
そういった意味では、残された建物はすべて価値のある良い建築といえます。
そんな身近にある良い建築を知ることで、
私たちの街とその風景を大切に思う気持ちにつながってほしいと思います。
パリの美しい街並みも、フランスの人々がその重要性に気がつき、
建物と景観を大切に保存するまでは、多くの経験を積んできました。

この本が、建物と街の歴史を知る一助になることを願っています。

もくじ

はじめに …… 2
愛知の建物、ものづくり編 …… 4
【コラム】建物を楽しむために …… 8
◆窯　業 …… 9
名古屋陶磁器会館 …… 10
日本陶磁器センター …… 12
旧山繁商店 …… 14
窯のある広場・資料館 …… 16
【コラム】愛知県陶磁美術館 …… 18
◆醸　造 …… 19
八丁味噌本社事務所 …… 20
中定商店味噌蔵 …… 22
九重味淋大蔵 …… 24
甘強味淋本社事務所 …… 26
半田赤レンガ建物（旧カブトビール製造工場） …… 28
【コラム】明治村と菊の世酒蔵 …… 30
◆繊　維 …… 31
木綿蔵ちた（旧竹内虎王商店木綿蔵） …… 32
旧中七木綿本店 …… 34
豊田市近代の産業とくらし発見館（旧愛知県蚕業取締所第九支所） …… 36
墨会館 …… 38
【コラム】ノコギリ屋根の工場 …… 40
◆機　械 …… 41
トヨタ創業期試作工場 …… 42
旭サナック本館 …… 44
【コラム】トヨタ産業技術記念館 …… 46
◆鉄道・電信 …… 47
旧国鉄武豊港駅転車台 …… 48
トヨテック本社社屋（旧豊川電話中継所） …… 50
【コラム】旧豊川装荷線輪用櫓 …… 52
飯田喜四郎先生特別インタビュー
「文化財としての建物」 …… 53
建物特別公開 …… 54
国登録有形文化財とは
愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会とは …… 56

愛知の建物、ものづくり編

はじめに

愛知の近代化の歴史を眺めてみると、その背景には産業が大きく関わっていることに気がつきます。また、産業の発展を促した鉄道の敷設や港の開港などのインフラ整備も、車の両輪として重要な役割を果たしました。

ただ愛知のインフラ整備は、東京や大阪と少し状況が異なっていました。それは、これらの事業が国の主導ではなく、愛知県、名古屋市などの地方官庁と民間企業の協力で進められたからです。

本書で紹介するのは、愛知の近代化を推し進めた産業に関わる国登録有形文化財の建物たちです。往時の面影を色濃く残す建物は、愛知の近代化という軸と重ねることで、その頃のようすを鮮明にイメージさせてくれるでしょう。

名古屋の歴史と明治維新

愛知の近代化の舞台の中心は名古屋でした。

名古屋の歴史は、徳川家康が城を築いた約400年前に始まります。碁盤の目状の城下町もその時に造成され、徳川家の重要な拠点として発展しました。また、名古屋の中心を流れる堀川は、城や町をつくるために開削された運河で、その後も名古屋の物流のかなめとして活用されました。

ちなみに、愛知県下の蟹江川や十ケ川（半田運河）、矢作川なども江戸時代に整備された水運です。その下流付近には港が設けられ、熱田など古くからの港も再整備されて、物流の要所として賑わいました。一方、東海道の整備に伴い、岡崎や豊橋などの城下町・宿場町には多くの人々が往来し、陸路も発展しました。

しかし、明治維新という一大転機を迎えると、新政府の置かれた東京や大阪をはじめ、新しく港の開かれた横浜、神戸が商業や産業の中心になりました。そして、徳川家の拠点だった名古屋は新政府の計画から距離を置かれ、新しい時代から取り残されていきました。

鉄道と港、2大インフラ整備への道

明治22年、大日本帝国憲法が発布されると、それにあわせて国土の整備が進められました。東京-大阪間をつなぐ幹線鉄道が敷設されたのもこの頃です。

明治17年の計画では、この路線は中山道を経由するルートで進み、名古屋は幹線鉄道から外れていました。この危機的状況に立ち上がったのが名古屋区長（現在の市長）吉田禄在です。吉田は何度も東京へ出向き、路線計画を東海道ルートへ変更するよう陳情します。やがて、政府から名古屋駅と市街地をつなぐ広小路通の延長を条件に、東海道ルートへの変更が決まりました。これには名古屋商工会議所など民間企業が協力しました。

東海道本線の誘致により、人も物流も大幅に増加した名古屋は、最重要の課題だった大型船の入港できる名古屋港の築港計画を進めます。貿易の拠点となる港の建設は、産業にとって何より重要でした。

明治29年、愛知県は明治政府に築港の事業計画を要請します。しかし政府は小樽港の建設を理由にこれを却けます。莫大な資金のかかる築港は、国の支援なしでは難しい大事業でした。しかし、愛知県と名古屋市、そして民間企業は、これを自分たちで行うことを決断します。全国ではじめての試みでした。

護岸工事には、土木技師服部長七が開発した人造石工法「長七たたき」を大々的に採用することで工事費を大幅に抑えました。また反対が大勢だった世論を説得し、明治40年、ついに名古屋港は開港しました。この時、名古屋の水運の中心は未だに堀川でした。

そして愛知の産業は、ここから飛躍的な発展を遂げていくことになります。

近代産業の発達

大正時代の終わり頃には、名古屋の貿易高は全国3位の神戸と肩を並べるまでに成長しました。中心となった産業は、江戸時代から愛知に根付いていた繊維業や

窯業で、新たに登場した機械業がそこに加わります。また、古い歴史を持つ醸造業の発展も見逃せません。

繊維業では、名古屋紡績を合併した関西の三重紡績（後の東洋紡績）が台頭し、窯業では日本陶器（ノリタケカンパニーリミテド）、機械業では豊田自動織機製造会社（トヨタ自動車の母体）、醸造業では半田のミツカンなど、全国有数の大企業が登場します。それらの工場は、名古屋はもとより愛知県下に広く建設されました。

ところで、繊維業や機械業の工場の多くは、資材の調達に便利で動力の供給に適した河川や運河沿いに建てられました。これは、機械化が進み動力の蒸気機関に必要な水のある地域が適していたからです。栄生の豊田自働織布工場（トヨタ産業技術記念館）や刈谷の豊田自動織機製作所（トヨタ創業期試作工場）、また、時代は下りますが、一宮の墨会館近くも木曽川の豊かな水を利用した工場地帯でした。

一方、窯業は、名古屋駅の近くに日本陶器が大規模な工場を建てましたが、それ以外では名古屋陶磁器会館のある東区の白壁界隈に多く点在しました。半田のカブトビール製造工場（半田赤レンガ建物）などの醸造業も、土地の気候風土や地形、また原材料の入手に適した港や駅近くに工場を建設し、発展していきました。

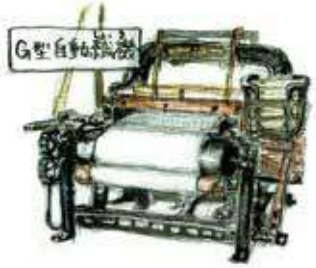
横浜や神戸が重工業で発展したのに比べ、愛知は零細企業が多かったのも特色です。

世界最高のものづくりへ

昭和4年、世界大恐慌により、アメリカをはじめ各国の経済状況が大きく揺さぶられました。また、長く日本の輸出を支えてきた生糸が衰退し、養蚕に力を注いでいた旧愛知県蚕業取締所第九支所のある挙母町など三河地方も大打撃を受けます。

産業はこれまでにも、大きな世界変動の影響をたびたび受けてきました。日露戦争や第一次世界大戦が繊維産業の発展につながったこともあります。

また第一次世界大戦を機に、名古屋港近くに熱田兵器製造所が建てられました。



次いで三菱内燃機（三菱重工）や愛知時計電機などの飛行機工場も建設され、名古屋港は航空機産業の中心地になります。その頃の飛行機はほぼ木製で、江戸時代から木材を主要な産業としてきた名古屋は、飛行機製造に適していたのです。宮崎駿監督の「風立ちぬ」の舞台が名古屋だったのは、そんな背景があるからでした。

昭和14年、三菱重工のエンジニアの堀越二郎が三菱A6M3零式艦上戦闘機を完成させます。通称「零戦」の登場は、世界の空を震撼させました。ジャンルは違いますが、大正14年に豊田佐吉が完成させたG型自動織機とともに、愛知のものづくりが世界最高の水準に到達した証でした。

しかし一方で、軍事化の波が、愛知の産業とその工場に兵器工場への転用を迫りました。戦争の暗い影が社会全体を覆っていった時代でした。

おわりに

昭和20年、戦争が終わると、名古屋は焼け野原になっていました。航空機の製造工場が集中していた名古屋は徹底的に爆撃され、岡崎や豊橋など軍需工場のあった都市も空襲で甚大な被害を受けました。その中で、大隈鐵工所旭製造工場（旭サナック）のように、戦災を免れた稀有な兵器工場もあります。

しかし、焼け野原になった街で、もう一度産業を復興させようと動き出した人々がいました。それは、明治以降、愛知の産業を支えてきた愛知県や名古屋市など地方官庁と、商工会議所ら民間企業の人々でした。

それから70年以上が経ち、愛知は戦前とは比較にならないくらい大きく成長しました。街には自動車が溢れ、人々は好きな衣服に身を包み、うまい飯を腹いっぱい食べられる社会を手に入れました。

そんな社会の片隅では、産業の歴史を共に歩んできた建物たちが、今もゆっくりと時を刻んでいるのです。